1　　基俊の人物評 　文法　用言①　動詞

歌合ありけるに、・、二人判者にて名を隠して当座に判しけるに、俊頼の歌に、

①しや雲井隠れにむたつも思ふ人には見えけるものを

これを基俊、と㋐心得て、「は沢にこそ棲め、②雲井に住む事やはある」と難じて、負になしてける。されど俊頼、その座にはも加へず。

その時殿下、「今夜の判の詞、書きて、参らせよ」と㋑仰せられける時、俊頼、「これ　Ａ　にはあらず、　Ｂ　なり。のとかやが、竜をⓐ見むと思へる心ざしの深かりけるによりて、彼がために現れてⓑ見えたりし事の侍るを、よめるなり」と書きたりけり。

基俊の人なれど、思ひわたりにけるにや、すべて思ひ量りもなく人の事をⓒ難ずる癖のⓓ侍りければ、③あとに失の多くぞありける。

語注

歌合＝参加者を左右二組に分け、それぞれから決められた題を詠んだ歌を一首ずつ出して、判者が｢勝・負・持（引き分け）｣と判定する催し物。

俊頼＝源俊頼。平安後期の歌人。

基俊＝藤原基俊。平安後期の歌人。

当座＝その場で。その座も同じ意。

殿下＝藤原。平安後期の・歌人で、このときは忠通の家で歌合が催されていた。

思ひわたりにけるにや＝思い込んでしまったのだろうか。

【原文】

歌合ありけるに、・、二人判者にて名を隠して当座に判しけるに、俊頼の歌に、

しや雲井隠れにむたつも思ふ人には見えけるものを

これを基俊、と心得て、「は沢にこそ棲め、雲井に住む事やはある」と難じて、負になしてける。されど俊頼、その座にはも加へず。

その時殿下、「今夜の判の詞、書きて、参らせよ」と仰せられける時、俊頼、「これ田鶴にはあらず、竜なり。のとかやが、竜を見むと思へる心ざしの深かりけるによりて、彼がために現れて見えたりし事の侍るを、よめるなり」と書きたりけり。

基俊の人なれど、思ひわたりにけるにや、すべて思ひ量りもなく人の事を難ずる癖の侍りければ、あとに失の多くぞありける。

問一　次の｢内容わしづかみ｣の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

藤原忠通の屋敷で〔　　　　〕があり、俊頼と基俊が〔　　　　〕となった。作者の〔　　　〕を伏せた歌に、基俊はよい評価を与えなかった。俊頼はそこで何も言わなかったが、あとで〔　　　　〕の間違いを指摘した。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ。（終止形でよい。）〈4点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ～ⓓの活用の種類と終止形を答えよ。〈2点×4〉

ⓐ〔　　　　　〕活用〔　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　〕活用〔　　　　　〕

ⓒ〔　　　　　〕活用〔　　　　　〕　ⓓ〔　　　　　〕活用〔　　　　　〕

問四　チェック問題　用言①　動詞

次の傍線部の活用の種類と活用形を答えよ。〈1点×4〉

1　の里に、しるよしして、狩りに往にけり。（伊勢物語）

2　のつら、道のほとりに飢ゑ死ぬる者のたぐひ、…（方丈記）

3　頭は黒髪も混じらず、いと白く、年老いたり。（宇治拾遺物語）

4　秋来ぬと目にはさやかに見えねども…（古今集）

1〔　　　〕行〔　　　〕活用〔　　〕形

2〔　　　〕行〔　　　〕活用〔　　〕形

3〔　　　〕行〔　　　〕活用〔　　〕形

4〔　　　〕行〔　　　〕活用〔　　〕形

問五　空欄Ａ・Ｂに入る適当な言葉を本文中より抜き出せ。〈2点×2〉

Ａ〔　　　　　　　　　　　〕　Ｂ〔　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部①の解釈として最も適当なものを選べ。〈8点〉

ア　雲に隠れているたつも、思っている人には見えたというのに、自分が会いたいと思っている人には会えず残念です。

イ　雲に隠れようとするたつのように、自分が思っている人が私のもとから去ってしまうことは残念でなりません。

ウ　雲に隠れるたつではないが、恋しい人に思いが伝わらないなら、誰にも知られず雲隠れしてしまいたいのです。

エ　隠れ棲むべきたつでさえも姿を見せるほど、私も同じようにあなたへ思いを抱いています。

〔　　　〕

問七　傍線部②を現代語訳せよ。〈6点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問八　傍線部③とあるが、基俊に失敗が多いのはなぜだと筆者は言うのか。二十字以内で答えよ。〈12点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

【解答】

問一　歌合　判者　名　基俊

問二　㋐＝理解する　㋑＝おっしゃる〈4点×2〉

問三　ⓐ＝マ行上一段活用・見る　ⓑ＝ヤ行下二段活用・見ゆ〈2点×4〉

ⓒ＝サ行変格活用・難ず　　ⓓ＝ラ行変格活用・侍り

問四　１＝ナ行変格活用・連用形　　２＝ワ行下二段活用・連用形〈1点×4〉

３＝ヤ行上二段活用・連用形　４＝カ行変格活用・連用形

問五　Ａ＝田鶴　Ｂ＝竜〈2点×2〉

問六　ア〈8点〉

問七　雲に棲むことがあるだろうか、いやありはしない。〈6点〉

問八　深く考えずに他人を非難する癖があるから。（20字）〈12点〉

【現代語訳】

歌合せがあった時に、俊頼・基俊、二人が判者として（作者の）名を隠してその場で判定した時に、俊頼の歌に、

残念なことよ、雲に隠れたところに棲んでいるたつも、（見たいと）思っている人には見えたというのになあ。（私が思い続ける人にはなかなか会えない。）

これを基俊は、（「たつ」を）鶴と理解して、「田鶴は沢に棲むが、雲に棲むことがあるだろうか、いやありはしない」と（基俊が）非難して、負としてしまった。しかし俊頼は、その場では言葉を加えない。

その時忠通公が、「今夜の判定の言葉を、それぞれが書いて、（殿下に）献上せよ」とおっしゃった時、俊頼朝臣は、「これは田鶴ではなく、竜である。あのなんとかいう人が、竜を見ようと思った志の深かったことによって、彼のために（竜が）出現して見えたことがありますのを、（俊頼が）詠んだのである」と書いた。

基俊は博識の人であるが、思い込んでしまったの（だろう）か、全く思慮もなく他人を非難する癖がありましたので、あとになって（わかる）失敗が多くあった。

【補充問題】

問１　本文の内容に合致するものを一つ選べ。

ア　基俊は、博識だが思慮の足りない批判による失敗も多い。

イ　基俊は、忠通から判定の賞賛を受け、次の歌合を任せられた。

ウ　基俊は、即座に和歌を作ることができるが、格調の低い歌も多い。

エ　俊頼は、基俊からの批判に耐えかね、忠通に意見書を提出した。

問２　次の文の空欄に入る語句を答えよ。

「口惜しや…」の和歌の内容は、雲に隠れている「たつ」を［①（３字）］と思う人には［②（３字）］のに、私は思う人になかなか［③（４字）］ができないというものである。

【補充問題解答】

問１　ア

問２　①見たい［見よう］（３字）　②見えた（３字）　③会うこと（４字）